

## 日頃の教育に対する工夫、及び今後の教育への抱負

物質・生命化学科 内藤順也

私は学生さんから「この学問は面白い」と思ってもらえる教育を目指しています。令和 6 年度の優秀教員に選出され、私の目指す教育が福井大学・工学部の学生さんの学びに少しでも貢献できたことを実感できて嬉しく思います。私が今、有機化学の教員として教壇に立っているのは、原子を自在に組み立てて思いのままの分子を創出するこの学問を面白いと感じたことがきっかけです。受講生にこの面白さを伝えて興味を持ってもらうことが私の目指す教育です。

学生さんから面白いと思ってもらうために、まずは私自身が教える内容を面白いと思うようにしています。さらに、自分が面白いと思っても学生さんにそれが伝わらないといけないので、面白いという感情を表情と言葉で伝えるようにしています。学生さんに面白いと思ってもらえたら、その学問を自発的に学ぶようになり、教員が教壇で教える以上の学びにつながります。

易しく正しく教えることも面白さに大切な要素であると思っています。学生さんにとって大学の講義は難解です。面白いと感じるためには、講義内容がある程度理解できて腑に落ちることが大切です。自分の学生時代のことを思い出しながら、面白さの要となる部分がわかるように、受講生の知識に合わせて教えるようにしています。その一方で、内容を正しく教えることも大切にしています。教えやすいように安易に内容を簡略化せず、難しいことでも現在の研究で分かっていることを基に述べるように心がけています。

そして、学問を修得した未来を語るようにしています。現在の研究で解明されていないことと、その解明が社会にもたらす利益を講義では述べるようにしています。新しいものを創造したいという夢を持った工学部の学生さんに、この学問を深めれば社会の進歩につながる新物質の創出ができるようになることを伝えています。目標ができると学ぶ意義を感じられ、よりその学問を面白いと思ってもらえると期待しています。

今後は、受講生がファンになってくれるような魅力的な講義を行うことを目標にしています。ただ、ファンの獲得と維持は容易ではありません。人知れず弛まぬ研鑽を続ける必要があります。この先生の講義は面白いのもっとこの先生から学びたいと思ってもらえるように、最先端の研究内容に触れ、伝え方が上手い人から学び成長したいと思います。